

○各領域及び〔共通事項〕の内容と授業改善の視点はどのようなことか。

1 表現領域の内容

(1) 音楽の素材としての音

音楽の素材としての音には、声や楽器の音のみならず、自然音や環境音など私たちを取り巻く様々な音も含まれる。

○ 授業改善の視点

- ・ 声については、一人一人の声の持ち味を生かし、曲種に応じた発声を工夫し、歌詞のもつ言語的特性などを大切にされた表現活動を行うことが重要となる。
- ・ 楽器については、様々な楽器がどのような発音原理や構造上の特徴をもっているかといった点を押さえ、それらを生かすことが大切となる。

(2) 音楽の構造

音楽を形づくっている要素そのものや要素同士のかかわり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などが、音楽の構造である。

○ 授業改善の視点

- ・ 表現の学習では、音色、リズム、旋律、反復や変化などの音楽を構成する原理、歌詞のもつ言語的特性や楽器の特徴、さらには声部の役割や全体の響きなどの様々な観点からとらえて、それらを音楽の表現に生かしていくことが重要となる。

(3) 音楽によって喚起されるイメージや感情

音楽の構造を解き明かすことが、生徒のイメージや感情を一層喚起することになる。そしてまた、イメージや感情の広がりや深まりが、音楽の構造の発見につながるようになる。

○ 授業改善の視点

- ・ 曲想を感じ取りながら、それを音楽の構造とのかかわりにおいて再度とらえ直すといった活動を繰り返すことによって、生徒の感じ取った内容が質的に深まり、イメージや感情も広がり深まる。したがって、生徒一人一人がこうしたイメージや感情を意識し、自己認識をしながら表現活動を進めていくことが大切になってくる。

(4) 音楽の表現における技能

生徒が感じ取ったことを声や楽器、楽譜などを使って表現するためには技能が必要である。

○ 授業改善の視点

- ・ 発声や発音、楽器の奏法、音楽をつくる技能などを獲得し、音楽に対する解釈やイメージ、曲想などを適切に表現することが重要となる。
- ・ 身体をコントロールし、姿勢、呼吸法、身体の動きなどを意識することも大切である。

(5) 音楽の背景となる風土や文化・歴史など

(ア)から(エ)の背景となるものが、人間の生活の基盤である風土や文化・歴史、伝統といった環境であり、音楽自体、そして人間の表現行為自体、それらの影響のもとで生み出されてきた。

○ 授業改善の視点

- ・ 音楽がどのような風土や文化・歴史などを背景としているかといった視点をもつことが、曲のとらえ方や表現を深めることにつながる。

2 鑑賞領域の内容

(1) 音楽の素材としての音

音楽を鑑賞するときは、音楽の素材として使われている音そのものの特徴を感じ取ることが重要である。

○ 授業改善の視点

- ・ 鑑賞では、どのような音であるかということ、声では発音法、発声法、歌唱法など、楽器では材質、形状、発音原理、奏法などからとらえることが大切となる。

(2) 音楽の構造

音楽を形づくっている要素そのものや要素同士のかかわり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などが、音楽の構造である。

○ 授業改善の視点

- ・ 鑑賞の学習では、教材として扱う曲種や楽曲及び生徒の学習の状況などに応じて、音や要素の働きから生まれる様相、要素間のかかわりによって生まれる様相、音楽の構成や展開の様相などを学習することが重要となる。

(3) 音楽によって喚起されるイメージや感情

音楽に聴き入っている時には、音楽を形づくっている要素や要素同士の有機的な関連、構造の働きを感じ取ると同時に、それによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を味わっていることになる。

○ 授業改善の視点

- ・ 幅広く主体的に鑑賞することによって、自分の中に新しいイメージや感情が生まれることを意識したり、それを確認したりすることが重要となる。

(4) 音楽の鑑賞における批評

音楽科における鑑賞の学習は、音楽によって喚起されたイメージや感情などを、自分なりに言葉で言い表したり書き表したりする主体的・能動的な活動によって成立する。音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し他者に伝えることが音楽科における批評である。

○ 授業改善の視点

- ・ 根拠をもって批評をすることは創造的な行為であり、それは、漠然と感想を述べたり単なる感想文を書いたりすることとは異なる活動である。他者に理解されるためには、客観的な理由を基にして、自分にとってどのような価値があるのかといった評価をすることが重要となる。

(5) 音楽の背景となる風土や文化・歴史など

(ア)から(エ)の背景となるものが、人間の生活の基盤である風土や文化・歴史、伝統といった環境であり、音楽はそれらの影響を受けて成立し、様々な特徴をもつことになる。また、歌舞伎、能楽、オペラ、バレエなどの総合芸術のように、演劇的要素、舞踊的要素、美術的要素などのかかわりから成立しているものもある。

○ 授業改善の視点

- ・ 様々な音楽文化に触れ、その多様性を感じ取ったり理解したりすることは、音楽に対する価値観や視野の拡大を図ることになる。

3 【共通事項】の内容

(1) 音楽の構造の原理

音楽を形づくっている要素として音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ（＝現行の「和音を含む音と音とのかかわり合い」と同じ趣旨のもの）、強弱、形式、構成などを示し、要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することを、すべての音楽活動を支えるものとして位置付けている。

○ 授業改善の視点

- ・ 音楽をとらえるためには、有機的に関連し合っている音楽を形づくっている要素や音楽の構造の原理に注目することが必要となってくる。

(2) 音楽的な感受

音楽的な感受とは、音楽の要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することである。

○ 授業改善の視点

- ・ 要素や要素同士の関連がどのようなになっているかを知覚すること、どのような感じがしたのかといった感受の内容とを常にかかわらせて音楽に向き合うことが大切である。

(3) 音楽を共有する方法

音を媒体としたコミュニケーションが音楽の本質と言える。音や音楽の世界を他者と伝え合い、共有する方法の一つとして、音楽に関する用語や記号などが様々に工夫され用いられてきた。

○ 授業改善の視点

- ・ 歌唱や器楽の活動では楽譜から作曲者の意図を読み取って仲間と一緒に表現を工夫すること、創作の活動では表現したい内容を記載したりイメージなどを適切な用語を用いて伝え合ったりすること、鑑賞の活動では音楽のよさや美しさなどについて音楽に関する用語などを用いて言葉で説明したりそれを基に話し合ったりすることなどが大切である。